

つばたほくちゅうぶ
津幡北中部地区
 (石川県津幡町)

- 計画期間 平成23年度～平成27年度
- 面積 400.0ha
- 交付対象事業費 1,537.7百万円
- 町人口 37,520人

ポイント

- ①安全安心で快適な居住空間の形成
- ②地域の個性を活かした交流拠点の形成
- ③地域一体性の強化による持続的自立的なまちづくり

地区概要

津幡北中部地区では公共公益・商業施設や宅地開発が急速に進む一方、国道・鉄道・河川による地域の分断が顕著である。また、津幡城跡をはじめとする固有の地域資源が多く点在する。

目標

- ①分断された地区及び混在する新旧地区の一体性・連帯感を高め、次世代へ向けたまち・ひとづくりの基盤形成を推進する。
- ②潜在的な地域資源を活かし、交通の要衝として相応しい賑わいづくりと、広域的な交流拠点づくりを進める。
- ③複合機能市街地の形成に向けて、良好で快適な安全安心に暮らせる居住環境を整える。

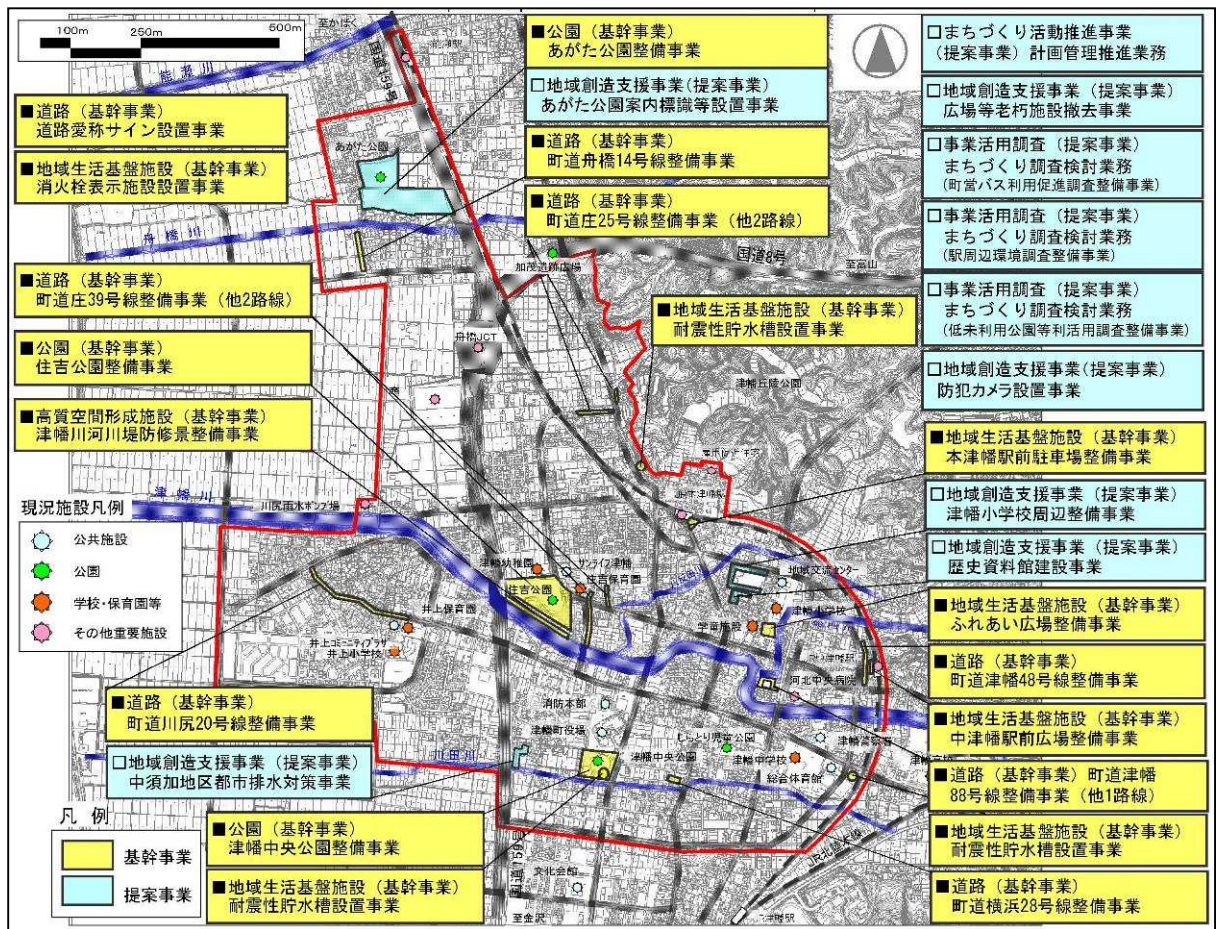
指標

身近な交流拠点の整備、安全安心の居住環境整備、移動円滑化を図る基盤整備、公共公益施設周辺の機能拡充整備等によって、住民の交流活動が活性化し、地域の公共施設や公共交通の利用者が増加する。

地区公民館の利用者数	58,900人/年 (H21)	→	71,800人/年 (H27)
町営バス利用者数	59,700人/年 (H21)	→	47,600人/年 (H27)
公共公益施設の利用者数	173,600人/年 (H21)	→	148,100人/年 (H27)

事業内容

- 基幹事業 (1,124.4百万円) → 道路(N=11路線、W=4.0～10.0m、L=1,698m)、公園緑地(N=4箇所、A=3.2ha)、耐震性貯水槽(N=3箇所)、消火栓表示施設(N=50箇所)、駅前整備(N=2箇所)、河川堤防修景(W=5.0m、L=280m)、道路愛称サイン(N=3路線)
- 提案事業 (413.3百万円) → 歴史資料館(A=1,100㎡)、学校周辺整備(A=1,700㎡)、老朽施設撤去(N=2箇所)、まちづくり調査(N=3事業 駅周辺環境、低未利用地活用、町営バス利用促進)、防犯カメラ設置(N=4箇所)、標識設置(N=1式)、都市排水(L=135m)



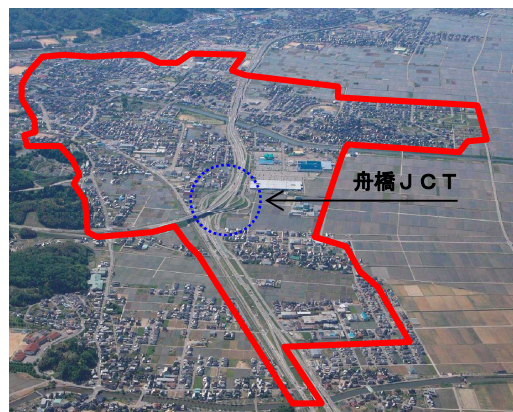
完了地区 石川県

地区の現況と課題

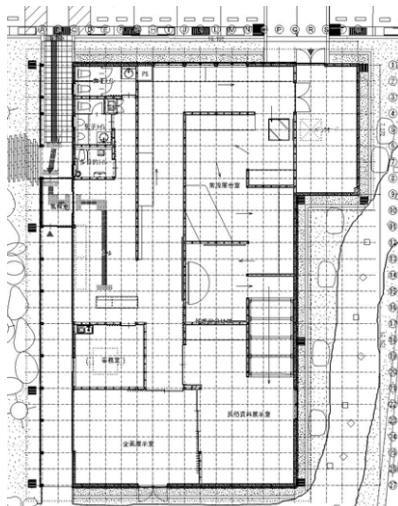
津幡北中部地区は、津幡町の中核として公共公益・商業施設が集積しており、舟橋 JCT を中心に国道・鉄道・河川による地域の分断が顕著である。

まちづくりでは、住民が積極的に参画した誇りをもてる自立的なまちづくり、良好で快適な安全安心の居住環境づくり、地域の歴史、個性、資源を活かした持続的なまちづくりが進められている。

課題としては、①道路・鉄道・河川などによって顕著に分断された地区相互、新旧住民相互の一体性の強化・交流機会の促進・連帯感を醸成する取り組みの一層の活性化、②複合機能市街地として市街地が急速に拡大するなかで、良好かつ快適で安全安心な居住環境の形成、③歴史的文化的な地域資源を活かした、交通の要衝として相応しい広域交流と賑わいの拠点形成が求められる。



津幡北中部地区を上空から見た状況



歴史資料館整備平面図

提案事業の特徴

地域創造支援事業

学校周辺において児童の安全安心な居場所づくりを目指すとともに、教育を通じた住民活動の促進や連帯感の醸成、さらには地域の歴史的文化的な固有資源を活かし広域的な情報発信・伝承を通じた賑わいの交流拠点づくりを推進するため歴史資料館の整備、小学校周辺整備、老朽化した広場の施設等撤去を行った。

事業活用調査

住民の日常生活における利便性・環境性・快適性・安全性の向上を図るとともに、地域への誇り・愛着・住民参画の向上を図るため、駅周辺環境の改善調査整備、地域に点在する低未利用地等の利活用調査整備、町営バス利用促進調査整備を行った。



低未利用地の利活用（遊具設置）



歴史資料館完成

計画策定プロセス

住民主体のまちづくり委員会による事業の推進

津幡北部地区では、平成 17 年より住民の積極的な参画によるまちづくり委員会が継続的に取り組まれ、まちづくり講習会やワークショップ、年数回の検討会、視察研修などが実施されてきた。

引き続き、北部地区委員会と連携を図りながら中心市街地の住民や新旧住民、有識者を交えた新たな委員会を結成し、まちなかや交流拠点における賑わいの創出、住民主体のまちづくりを推進している。



まちづくり委員会の様子

持続的自立的なまちづくりに向けた取り組み

住民が我がまちに誇りを持ち、持続的・自立的なまちづくりを進めていくため、これまでに取り組まれてきた住民活動のさらなる支援を進めることとし、具体的な取り組み成果としては、地域ボランティア活動、学街連携、安全安心・防犯に対する官民協働、歴史的資源の伝承と発信、ふるさと検定、大河ドラマの誘致推進、地区・学区区での修景活動、シンボルロードの愛称公募などを実施した。



道路沿線における住民の自主的な緑化活動の例



公募による道路愛称